

第3回琴浦町保育園・幼稚園のあり方審議会 会議概要

日 時 平成21年1月23日 14時00分から17時20分
会 場 役場第1会議室

= 日 程 =

1. 開会

14:00～

2. 会長あいさつ

皆様こんにちはは1月は行く2月は逃げる3月は去るという言葉がありますように、もう1月も終わりとなってしまいました。予定としては、7月には本審議会の中間とりまとめをしなくてはなりません。

我々が共通理解を図って、琴浦町の園児の健やかな育ちを支援していきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

3. 議 事

(1) 今後の審議の進め方について

○ 琴浦町保育園・幼稚園のあり方内部検討委員会総論（H20.8.5付）の説明

○ 審議の柱（テーマ）について

会長：今後審議を進めるにあたって、大きな柱を立てて、進めていきたいと考えています。そこで、順を追ってみなさんと話し合いたいと思いますがいかがでしょうか。

<適正規模による統廃合>

・ 各委員会提言や内部検討委員会の総論では、園児数は、概ね90人程度が望ましい規模だとされておりますが、現状はそうになっていません。概ね90人とする根拠は何でしょうか？

・ 施設の面積規模・効率的な人員配置を考慮した数字であります。国の基準で言えば、定員90人以下の保育園には1人職員の加算が付きます。あくまでも目安となる数字です。そういった基準から概ね90という数字がでてまいりました。今後皆様の方で検討していただければと思います。

・ 90人にこだわる必要はないと思います。地域の実状に応じて定員を決めたら良いのではないのでしょうか。ただし、多すぎたときはどうなのか、逆に少なすぎるとどうなのか、みなさんで議論していただければと思います。

・ 表3施設の受入基準表、表4職員の配置表の表示ですが、公立保育園のみではなく、私立保育園についても表示して欲しい。

- ・ 平野部・山間部の地域差と保育園の規模に大きな違いがある中で、適正規模の決定については、弾力的に決めていただきたい。

- ・ 逆に定員を大きく下回った場合も想定しなくてはならない。

- ・ 総論では、適材適所に、概ね定員90人をイメージした施設を考えたほうが良いのではないのでしょうか、といているものだと思います。

- ・ 下限の20人を考えた場合、そういった保育園は将来的にはどのような地域になっていくのか不安に思う。

- ・ 90人以下という考え方ではなく60人以上という考え方でも良いのではないかと。

- ・ 幼児期の保育・教育の充実についてですが①小学校と保育園との連携とは何ですか？②集団生活のメリット・デメリットは？③混合クラスでの事故発生の危険性とは？（混合クラスのほうが先生の目が届くのではないですか？）

- ・ ご承知のとおり、「新保育所保育指針」に明確に示されましたが、①園児が円滑に保育園・幼稚園から小学校へ入学するために連携がより重要になってきます。これまで以上に連携を深めなければなりません。②集団生活は、子供の成長にはある一定の人数のもとで一緒に切磋琢磨しながら生活することが必要だという考えです。社会にでたときにギャップが発生します。小学校については、国は40人程度となっておりますが、鳥取県は30人となっております。本当に少ないほうが良いというならより少人数で進んでいくのですが、そうはなっていない、やはりある一定の人数が必要ではないかと考えられます。

- ③実際には2学年が混合クラスとなっており、そのことが原因で事故の報告はありません。今後ますます少子化が進めば、混合クラスでメリット、デメリット考えられますが、年齢差が大きくなった混合クラスを想定したとき、極端な年齢幅で1クラスとなったらそれだけ事故の発生する率は高まると考えられます。

- ・ 保育園へは自宅から歩いていける距離にしてもらいたい。特に、自動車の運転のできない祖父母は送迎ができなくなります。

両親が勤め人なので、急に熱などで呼び出されても、なかなか迎えに行けない、そのような緊急のときは、おじいさんやおばあさんに頼むことがある。やはり保育園の位置にはこだわりたいですね。

- ・ 他の審議会のことは、いろいろお聞きしますが、この外部の審議会は、保護者の意見を多く取り入れていただきたいですね。

- ・ 古布庄保育園が廃園となり、勤保育園と統合した場合、古布庄小学校との連携はどうなりますか？

- ・ 琴浦町小学校適正規模・配置審議会とも連携していかななくてはなりません。

- ・ 琴浦町小学校適正規模・配置審議会もかなり詰めた話となってきました。やはりその会合とも連携をとっていかないといけないのではないかと。
- ・ 広域入所や奥部の方が、みどり保育園へ通わせておられる現状もあります。そのような方々は、あまり地域の枠にこだわっていないように思います。勤め人が多いので、親の勤務地の都合で町外に入園させる傾向にあります。
- ・ 保育園については、地域とのつながりを重要視してほしいが小学校については、それほどとは思いません。地域の実状を棚上げして、定員を考えることは、どうかと思う。
- ・ 多くの保育園が公民館・小学校と同じ規模のコミュニティを維持していると考えている。地域の適正配置を検討した上で統廃合を行ってほしい。
- ・ はじめに90人ありきという考え方は理解しがたいのかなと思います。
- ・ 保育園は保護者の立場からいうと便利なところで教育はそれほど求めているのではないかと。園児の送迎を町がおこなってはどうか？
- ・ 豊かでない町財政を有効活用していかなくてはならないと思う。
- ・ 地域のコミュニティは重要であるがそうであるならば、奥部の方が町外やみどり保育園に通わせないのではないかと。
- ・ その地域のコミュニティに保育園が必要だと考えます。
- ・ 保育の質が一番重要だと思います。現状をみますと、園長をはじめ、職員が忙しすぎるような気がします。
- ・ 保育園や公民館の位置づけを忘れてはいけないと思います。
- ・ 現状の通園方法のアンケート調査を行ったほうがよいのでは。
- ・ 鋤・浦安幼稚園が無くなり、現在では八橋幼稚園しか残っていないのはなぜですか？
- ・ 7・8年前から議論されておりますが、鋤幼稚園は建物が老朽化、浦安幼稚園は定員割れにより閉鎖となってしまったようです。

<保幼一元化について>

旧東伯町のと看から、保育園と幼稚園の選択制をとっていた経緯については、過去に、今の「認定子ども園」のような制度を実施しようと試みました。

保育園と幼稚園のそれぞれの良い部分を取り入れて、実施しようとしたのですが、

施設の容量がなかったために分園方式で実施ということで話が進みました。それならひとつにする意味がないのではという保護者の声が多く寄せられ、実現しませんでした。選択制がそのまま続けられ、幼稚園を希望される方が少なくなり、休園となりました。また、なぜ保育園には給食室を設置しなければならないかという必置規制の議論も食育の関係からネックとなりました。

・ こういった過去の経緯を踏まえつつ、現在国が進めている「認定子ども園」を検討してはどうでしょうか。

・ 一つの園舎で、共存できるような状況であれば一元化もよいと思います。

・ 現在、狭く、地盤沈下が進む建物で、認定子ども園を目指すのは困難であると思う。しかし、八橋幼稚園と八橋保育園を何処か新たな場所にひとつの園として建てることについては、賛成している保護者は多いと思う。

・ 八橋幼稚園の園児には、八橋小学校区の園児だけがきていますか。

・ 今年度については、浦安小学校区からきている園児もいます。

・ 認定子ども園は赤碕地区にあってもよいと考える。

・ 認定子ども園がいいものであれば、もっと普及しているはずですね。

・ 認定こども園等の資料をもっと集めて欲しいと思います。

・ 現実的には園舎の容量の問題があります。

・ 事務手続き等が煩雑なため、事務方がおよび腰な面があります。

・ 認定子ども園に関しては、法人が施設の整備をしないと補助金がでない面や、認定子ども園の制度にのっかって、公立経営の保育園には、補助金がもらえない、公立が踏み切れないのはそういった面もあると思います。

・ 結局、都会の法人格の幼稚園がなんとか保育園の待機児童を幼稚園に引っ張ってこられないだろうかという色合いの濃い制度であるような気がします。

・ 次回、認定子ども園の事例等を紹介してほしいですね。

次の民営化等の議論にも絡んできますので、もう少し詳しい資料でみなさんと議論を深めていけたらと思います。

<民間委託・民営化について>

・ 内部検討委員会では、この民間委託・民営化については言及しておりませんが、提言等にありましたので、テーマとさせていただきます。

・ 議会の提言では、保育園の完全民営化を目指すようにとっておられますが、公立でやるべきだと思います。

子育ての政策については、最終的には町が責任をもってやるべきだと考えます。

現在、私立のみどり保育園も赤碕保育園についても、完全なる民営ではなく、町との契約による委託業務で行っております。

・ 国の流れとして、現在の制度では、公立として施設の建設工事を行っても、国からの補助金がなくなりました。そのことも民営化を考える際には、考慮すべき点であると思います。

・ 次回にでも、民営化や指定管理者制度等について少し詳細のわかる資料を集めていただきたいですね。これといった事例があればお願いしたい。

・ 教育委員会からの意見を基に、保育園の統廃合だけではなくて、幼稚園についても検討してほしい。

・ 幼稚園の保護者代表にも本会に出席してもらわないといけないと思うが、追加のお考えはないものでしょうか。

・ そのことについては、第1回目のときに具体的に名前をあげてお願いしましたが、いまこの場に出ておられる方で十分議論していただけるものであるということで、私は納得いたしました、やはりこの中で議論すべきではないでしょうか。

・ みなさんは、保護者の代表として出てきておられますが、園を代表して出席していただいているわけではございません。それだと全ての園から出てきてもらわなければなりませんし、みなさんは、町全体の今後を考えて、この審議会でおおいに議論していただきたいと思います。

・ 今現在が幼稚園の保護者でないといけませんかねえ、私は、今は私立の保護者ですが、過去に八橋幼稚園の保護者でもありましたし、それでよろしいのでは。

・ 教育委員会の意見については、担当課職員に出席をしてもらってはどうか？

・ そうですね、必要に応じて出席してもらいます。

・ 就学前の教育については、非常に重要だと感じますので、教育委員会の意見はとても貴重な意見だと感じる。

<保育内容の充実と地域の活性化について>

・ 槻下やきらりタウンへ若い世代が流出してしまう。ますます、奥部の人口が減少してしまっている状況があります。

- ・ 保育内容の充実はよくわかるのですが、地域の活性化とどう関連付けるか難しいのでは？

- ・ 確かに難しいのですが、保育園と地域は密接な関係がありますし、一応のテーマの案として、出させていただきました。皆様方で、議論しやすいように進めていただければ結構です。

保育内容の充実とは、先ほど来から出ておりますように、保育の質を如何に向上させるかということが重要になってまいります。

併せて、子育ては地域が連携して、地域の中で行われなければならないと考えます。地域が活性化することで、子どもたちが育つ環境もより良いものにつながると思います。

長いスパンで広く考えれば、例えば、それぞれの小さな地域に子どもたちがいなくなった後、お年寄りのコミュニティ施設として残された保育園舎をどう利用するかといったこともシミュレーションとして議論のひとつとなると思います。

勿論、ここでいう地域のとらえ方については、その枠組みを限定するものではありません。各地区を区分けした地域もあれば、大きく琴浦町全体もひとつの地域としてとらえることもできます。

地域の活性化もひとつの課題にすえて今後の審議を深めていただければと思います。

- ・ みどり保育園とみどり園の交流を通して、園児が成長し、高齢者も喜びを感じる場面が多いと思います。そういったことが行われることが、地域の活性化へつながるのではないかと考えます。

大人のパトロール等により、地域の園児を見守るということも毎年実施されており、地域で子どもたちを見守っています。

- ・ 保育園は、児童福祉施設ではなく、社会福祉施設であると思う。

- ・ 保育園は、保護者に対する啓発活動の場であると考えている。

- ・ 職員の質の向上と食育、保護者への指導が重要だと思います。特に、保育士資格のある保育士を増員してほしいと感じています。

- ・ 結局、財政の問題でありますので、段階的に保育士の補充をしていきたいと考えております。

- ・ 保育士資格のある方だけに保育をしてもらうのが本来ですが、しかしながら、無資格の方によって補充しなければならないのが現状です。

- ・ そういった現状を把握しながら、如何に保育の質を向上させるのかを議論していきたいと思います。

- ・ 無資格の方の雇用については、地域の雇用の創出をするという面では有効であると考えておりますが、保育の質ということを考えますと、大いに議論すべきことだと思います。

<諸課題の解決について>

会長：これまで、それぞれに問題点や課題を出していただきました。今後は、出していただいたこれらの問題点について、ひとつひとつの解決策を考えていきたいと思えます。宿題として、みなさんで、それぞれの課題をどうすればクリアーできるのか考えてみてください。それでは、次回以降、より掘り下げて論議していただきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

大変お疲れさまでした。

5 閉 会

次回は、平成21年3月6日（金）15：00～